

# 自 彊 会 だ 上 り

変 わ ら ぬ 伝 統 と 文 化

今 も

第31号



100周年特別号



## 100周年記念行事第1弾 「記念野球大会」の報告

昭和8年8月、明石中学対中京商業の試合は、高校野球史に残る「延長25回」という激闘となりました。明中は残念ながら勝利を手にはできませんでしたが、この偉業を忘れず、いつの日か甲子園球場で明高校歌を高らかに歌いたいという思いを込め、100周年記念行事として中京大中京高校を招待し、野球大会を計画しました。残念ながら5月7日は雨天のため試合はできませんでしたが、明高中部講堂にてのセレモニーと合同練習が行われました。新聞各紙、NHKニュース等でも取り上げられ意義ある行事となりましたこと、ご報告します。





100年を越えて  
新たなステージへ  
まっすぐに!!



明中、明高創立100周年記念号に寄せて



自彊会会長 和田直樹 (高28回)

同窓会の皆様、長かったコロナ騒動もようやく終焉を迎えやってきました創立100周年の年が！

よもや自分がその年に同窓会の会長をしているなんて50年前に入学した神ならぬ身の自分が知る由もありませんが、選ばれて尻込みするのは性ではありません。後もう少し、精一杯やらせて頂きます。

さて、皆様のご厚意により寄付金、ふるさと納税共に着々と目標額に近づいておりますが、もう後ひと押しが足りません。まだ間に合いますのでまだご寄付をなされてない方、今年度のふるさと納税まだされてない方、何卒よろしくお願ひします。

皆様から頂いた浄財は大切に使用させて頂きます。もう終わっておりますが両校創立百周年の明石高校対中京大中京の野球の記念試合、記念式典はMCに卒業生の赤江珠緒さんを迎え9月30日に。その他中庭の整備、資料館の増設、記念碑の設置等々、本当に感謝であります。

こうして同窓会、記念事業のお手

伝いをさせて貰っておりますと本当に我が校の卒業生は多士済々だなぁと思います。世界No.1を誇る株式会社

社きしろの会長であり日本馬主協会の名誉会長でもある松本さん、業界のガリバーでありフランス政府から勲章を授与された千代田テクノルの

細田さん、関西の雄阪神タイガースのオーナーである藤原さん、携帯電話業界に風穴を開けるべくあらゆる

逆風の中孤高の戦いを続けている楽天の三木谷さん。全国広しと言えどもプロの球団のオーナーを2人も輩出している学校は本校くらいじゃないでしょうか。まだまだ絵画、彫刻、イラスト、漫画等、数え上げたら切りがありません。おっと忘れてはならないのが会いに行けるアイドルならぬ会いに行ける奇跡、ACG18の安藤さん。先日日本歌曲コンクールで受賞されたとかで開かれた記念リ

サイタルを観に行かせて貰ってびっくり返りました。500席満員のホールでノーマイク、日本語英語ドイツ語イタリア語の歌を22曲(！)歌っ

た後のアンコールの2曲目、圧巻のカンツォーネを聴いた時不覚にも目頭が熱くなりました。

我屈するものか！という誇り高い朱鷺の老鳥の一声にも似た95歳の歌声、その姿を取めた約2分の動画は私の回りのシニア世代に大いなる叱咤と激励と刺激と希望を与え続けています。無理とは思いますが、あんなオッサンになりたいなあ。

創立百周年、人生も百年、皆さんも己が百年を頑張つて生きましよう。若い卒業生の皆さん、先は長いけど楽しんでいきましようね。

良い見本は山ほどいますよ!!

2023年度総会のご案内

コロナ対策を十分に行いながら総会を開催いたします。母校の創立100周年を祝う記念すべき年でもあります。ご多忙とは存じますが、お集まりいただき、同窓会の発展にとつて、有意義なご意見を拝聴できればと存じます。

記

期日	2023年7月8日(土)
場所	明石高校 会議室(3階)
受付開始	午前10時から 午前10時30分
次第	① 会長挨拶 ② 議案審議 ③ 質疑応答 ④ その他

もくじ

会長あいさつ	2
2023年総会案内	2
第26第校長あいさつ	3
第25第校長あいさつ	3
ひととき	3
学校の未来像	4
創立100周年特集	6
会社訪問	9
米寿の祝い報告	9
学年同窓会交歓	10
東京自彊会報告	11
二十歳の集い	12
入会あいさつ	12
高13回首都圏同窓会	13
学年同窓会の告知とお知らせ	13
自彊不息	14
進路状況	15
人事異動	16
部活報告・人事異動	18
栄光を讃える今・昔	20
お祝いの言葉	22
美術支部	39
お悔み	40
掛け軸寄贈の紹介	41
決算報告・事業報告	42
同窓会役員・事務局より	43
第100回入学記念記事	44
編集後記	44

稽古照今



第26代校長 北中睦雄

自彊会の皆様におかれましては、ますますご健勝にお過ごしのこととお喜び申し上げます。平素は本校の教育活動に並々ならぬご支援とご協力をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

このたび、西茂樹前校長の後任として、まして伝統ある明石高校の校長を拝命いたしました北中睦雄でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

人口減少社会の到来、グローバル化の進展、ICTによる技術革新の進展、働き方改革等、めまぐるしい社会情勢・教育環境の変化において、子どもたちには①社会的自立に必要な能力や態度②チャレンジ精神や創造性、コミュニケーション能力等、国際社会で主体的に活動するための力③ICT等の新しい情報活用能力等の育成が必要であると指摘されています。

本校におきましては、これまで、県下で唯一の「美術科」の設置、西オーストラリア州モリー高校との国際交流、「理数探究類型」の設置、「ひょうごスーパースクール(HSH)」の指定校など、

社会の変化に伴い、時代の要請に応じた、柔軟な学校改革を進めながら、地域社会や国際社会で活躍する有為な人材を多数輩出してきました。

また来年、令和6年度からは「科学、技術、工学、芸術、数学」これらを総合的に横断的に学ぶ「STEM探究科」をスタートさせるなど、さらなる飛躍に向け、準備しているところです。

いよいよ本校は今年、創立100周年を迎えます。さまざまな100周年記念事業を通じて、生徒が機会あるごとに「明高」の伝統・文化に触れ、建学の精神である「自彊不息」を基軸に、「社会的で創造力豊かな自主的個人」として成長できるよう微力ながら全力で取り組む決意です。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

明高の飛躍

発展を願って



第25代校長 西茂樹

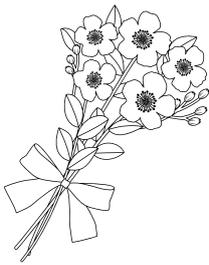
自彊会の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、母校に對しまして多大なご支援を賜り、深く感謝

申し上げます。

第25代校長として4年間大変お世話になりましたが、この度再任用を終え、明高を離れることとなりました。この間、大過なく過ごせましたのも、ひとえに自彊会の皆様のご理解ご協力のお陰と深く感謝申し上げます。

思い返しますと、自彊会の皆様の力強いご支援により、創立100周年記念事業に向けた準備、「100年を越えて新たなステージへ まっすぐに!!」のスローガンのもと、来年度よりスタートする、普通科理数探究類型の単位制STEM A M探究科への改編、普通科・美術科の単位制改編準備等、まさに「新たなステージへ」と向かう明高に身を置いてその時空を皆様とともに共有できましたことは、教員生活の集大成と位置づけて学校経営に取り組ませていただいた私にとりまして、最大の思い出となりました。今後は明高の応援団として、「自彊不息」の建学の精神、校歌にある「集え・競え・誓え」の気概を礎に、そのさらなる飛躍・発展を見守らせていただきたいと思います。

最後になりますが、自彊会の皆様の益々のご多幸を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。



ひととき

高校時代の山の仲間がたて続けに亡くなった。しばらくは何もする気にならない時間が流れた。その間、行った山々を思い出していた。

スーパールン道ができる前の白山。1日目は雨だった。そのお蔭で次の日の夕方、テントを張ったところから眺めた雲海は歩いて彼方まで行けそうな程壮大だった。北アルプス銀座。ここも雨が降り、槍ヶ岳を断念した。ここではテントを引きあげ泊まった小屋に雷が落ちた。でも夏の雷鳥と出会ったり、高山植物チングルマの花を見ることができた。白馬岳大雪渓も経験した。初めてアイゼンを装着して登った。

テントを担いで飯盒やストープを持って登るのだから、今の装備と違って相当重かった。でも楽しかった。だから半世紀を越えても鮮やかに思い出すことができる。高校時代は兵庫の山々にしか行けなかったけれど、そこで培った山の少しの知識と、たくさん育んだ友情で、卒業後こんなに山を経験することができた。

私たちより半世紀前に明中が大家族主義を謳い育んだ友情の歴史の上に、私たち以降の半世紀の明高の歴史が積み重ねられ、いよいよ今年100周年を迎える。この重厚な年月を思い、とても嬉しい。若き日の友と一緒にもう一度シニア登山をしたいと思っていたが叶わぬことになってしまった。

思い出を抱えて、重い腰をあげてみようかと思う今頃である。

(幸)

### 運営サポート

大阪大学、神戸大学、慶應義塾大学、甲南大学、明石市等

※卒業生の皆様のご支援をいただいています。

### 単位制のメリット

◇学年による教育課程の区別がなく、決められた単位を修得すれば卒業が認定

◇探究活動や、大学での研究につながる深い学びが実現

◇将来の進路希望・興味関心等に応じた科目選択が実現

◇教員の定員増による少人数授業・手厚くきめ細かいサポートが実現

◇文理横断的・教科横断的な学びが実現

◇充実したガイダンスを通して自分の時間割が可能

### カリキュラムの特徴

理数系の難関国立大・医療系国立大への進学を基本としたカリキュラム編成で、普通科よりも授業時間が多く、その中で探究活動を実施します。また、探究活動・進路希望・興味関心等に応じて科目選択ができ、少人数授業が可能となります。

明高は今年度創立100周年を迎えましたが、「100年を越えて 新たなステージへ まっすぐに!!」というスローガンのもと、101年目に単位制STEAM探究科がスタートします。102年目からスタートする普通科・美術科の新たな教育の実現に向けて、引き続き準備を進めてまいります。

明高がさらに魅力と特色あるすばらしい学校へと発展できますよう、今後とも自彊会の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



3D プリンター



探究ルーム



VR ゴーグル



ドローン

# 学校の未来像

## 学びたい ないたい をデザインする

～明高は探究力を身につけ未来を切り拓く人材を育成します～

### 普通科理数探究類型を単位制 S T E A M 探究科に改編（令和 6 年度より 1 年次 40 名）

平成 20 年度に新設された生命科学類型は平成 25 年度に理数探究類型に改編されましたが、文部科学省の普通科高校改革に関する制度改革、県教育委員会の県立高等学校第 3 次実施計画における「魅力・特色づくり」、Society 5. 0 時代における課題解決能力や創造力の育成等を踏まえて、県教育委員会と協議を重ねた結果、理数探究類型をさらに改編するかたちで、令和 6 年度より単位制の S T E A M 探究科を設置することとなりました。

次代を見据えた新たな教育として文部科学省が推し進める S T E A M 教育を全国に先駆けて明高で行います。概要は次のとおりです。

#### S T E A M 教育とは

Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Art（芸術）、Mathematics（数学）を総合的・横断的に学ぶことで課題解決能力・創造力を養います。

#### 明高の S T E A M 教育とは

企業等との連携により得られた先端技術に関する知識をもとに、総合的・横断的な S・T・E・A・M の学びを活かし、身近な課題の解決や新たな価値の創造に向けて、他者と協働しながら主体的に探究活動を行います。

STEP ①【知識・技能】：企業等と連携し、実社会で実装されている道具としての先端技術を学びます。

STEP ②【課題の発見】：データや実証に基づき、客観的根拠や特殊性を見出して課題を発見します。

STEP ③【探究・提言】：学んだ技術とデザイン力を活かし、課題解決のための探究を深め、モデルやプランにまとめます。

#### 育成を目指す人材

◇社会で求められている、思考力・判断力・表現力や、主体性・協働性を備えた人材

◇新たな課題を発見し、高度化した ICT（情報通信技術）、IoT（モノのインターネット）等も活用して課題解決に取り組み、新たな価値を創造できる人材

◇社会のイノベーションを担う力を有する人材

#### 連携企業等（予定）

きしろ、シスメックス、千代田テクノル、モリサワ、理化学研究所、NPO 法人再生可能エネルギーあかし、兵庫県園芸公園協会、兵庫県立美術館等

※卒業生の皆様のご支援をいただいています。

#### 探究活動（例）

◇樹脂部門関係の新たな設計・デザインの創出

◇資源を有効活用して生活に役立つ新機能を持った物質・先端材料の創出

◇ヘルスケアの進化をデザインする価値の高い新たな検査・技術の創出

◇原子力防災の提案と環境放射線分析による安全・安心な生活環境の創出

◇美しさや使いやすさを実現する文字・デザイン・設計等の創出

◇明石公園の植生も活かした空間デザインや G I S（地理情報システム）等技術を応用した街づくりの創出

# 創立100周年を迎えて

100周年記念事業

実行委員長 永井 邦治  
(高27回)



自彊会会員の皆様には、平素から母校の諸活動に対してご支援、ご協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

さて、いよいよ本年、明石高等学校は記念すべき創立100周年を迎えます。令和2年に学校・PTA・同窓会・教育振興会で構成する実行委員会を立ち上げ、これまで準備を進めてまいりましたが、コロナ禍によりその活動が制限されるところもあり、正直進捗状況に少々の不安もありました。

幸い、この原稿を書いている4月時点では感染状況も落ち着いており様々な行動制限も緩和され、日常生活が元に戻りつつあります。

5月7日に予定している明石球場での中京大中京高等学校を迎えるの記念試合をかわきりに記念美術展や記念式典などが行われますが、とりわけ明石市立市民会館で9月30日に開催する記念式典及び舞子ビラでの祝賀会についても、平常時のように多くの皆様にご出席いただき盛大に開催できそうであり大いに期待して

いるところです。

すでに「ふるさと納税」を活用したご寄付により資料館及び周辺の庭園整備、教室の改修や備品の整備などに着手して参りました。またこれまで多額の募金も頂戴しておりまして、ご協力頂きました皆様に心より感謝を申し上げます。

今後も各記念事業が充実したものであるよう努めて参りますので、さらに多くの皆様に募金を通して記念事業にご参加いただきますようご協力をお願い申し上げます。

令和5年度の高校入試では明石高校を第一希望とする中学生が増加し普通科の倍率が例年に比べて高くなりました。これは本校が100周年を迎える伝統校であるとともに、令和6年度から理数探究類型がSTEM AM探究科(単位制)に生まれ変わるなど魅力ある学校づくりを進めてきたことへの期待の表れではないかと思えます。

私たち実行委員会では、この機を逃さず明石高校のさらなる発展に向けて、100周年を大いに盛り上げ成功させたいと考えています。皆様方の変わらぬご指導、ご協力をあらためてお願い申し上げます。

## 記念事業一覧



### 1 シンボルマークの作成

美術科の生徒を中心に公募、選考会で決定しました。

### 2 100年誌の編纂

80年誌を基礎資料に、100年の歩みを纏めました。

### 3 資料館の整備・充実

貴重な資料のデジタル化とともに、100年の変化が感じられるように展示に工夫を凝らしています。

### 4 新資料館の建設

明中・明高の歴史上貴重な品を集め後世に伝えるため、新資料館(展示棟)を建設します。

### 5 100周年記念碑の設置

初代校長山内佐太郎先生が書かれた「自彊不息」を彫り込んだ記念碑を、正門近くに設けます。

### 6 子午線測量記念碑の設置

子午線測量の場所を保存し、観測の様子が分かる標示板を校内に設けます。

### 7 校内環境整備事業の推進

「ふるさと納税」で寄せられたご寄付を活用し、資料館南のスペースに庭園を設け、在校生・卒業生が集える場を設けます。

**記念行事 第1弾**  
**5月7日 野球大会の実施**

昭和8年、夏の全国中等学校優勝野球大会におきまして、明石中学と中京商業（現中京大中京高校）が、延長25回の激闘を繰り広げて今年で90年となります。

創立100周年を記念する行事として何を行うかを検討する中で、実行委員の方々から、自然と野球大会の実施を要望する声が上がりました。もう一度甲子園球場での「明石対中京の再現を」との案も出る中、実行委員代表が甲子園球場を訪問し、球場借用のお願いをしました。現役高校生の試合に甲子園球場をお貸しすることはできない」との回答でした。「OB戦なら、12月頃の借用は可能がある」と提案いただきましたが、寒い時期でもあり、又多額の経費を要する点からも甲子園球場使用は断念致しました。

結果、地元明石球場を借用し、中京大中京高校に遠征いただくことで野球大会の開催を決定いたしました。今年春の甲子園を沸かせた報徳学園にも参加頂き、3校で3試合を行うことになりました。

残念ながら当日は生憎の雨。記念試合は中止となりましたが、明高中

部講堂でのセレモニーと合同練習は意義ある時間となりました。表紙裏にある写真は、その時の様子を伝えるものです。

**記念行事 第2弾**  
**7月28日 星を観る会の開催**

昭和初期、京都帝国大学の先生方が中心となり、「子午線の位置の正確な測量を行う」こととなりました。明石中学の運動場の一角と寄宿舎の借用申し出があり、当時の山内佐太郎校長はこれを快諾、観測・測量が行われました。以来100年近くの歳月が流れ、観測に使われた機器は現在明石天文学館で保管されていますが、「観測の正確な場所が分からなくなってしまうのは残念」との声が上ががり、創立100周年の記念行事として、「観測・測量の地で星を観る会を開催する」ことが決まりました。

当日は、子午線測量の解説や夜空の説明を明石天文学館の方が行って下さいます。多くの皆様に参加頂きたいところですが、今回は小学生とその保護者を中心に、明高がお世話になって近隣の皆様へのご案内とを考えています。100名程度で開催を予定しています。

**記念行事 第3弾**  
**9月30日 記念式典等**

☆午前9時～10時30分☆

場所 明石高等学校

・「**明中祠への合祀**」

この10年間にお亡くなりになった方の芳名録を納めます。

・「**100周年記念碑の披露**」

5万円以上ご寄付の方のお名前を刻んだ銘板は、11月下旬になります。

・「**記念庭園の披露**」

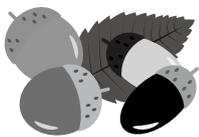
ふるさと納税を活用して資金を集めました記念庭園を公開します。

・「**子午線測量記念の標示板**」

昭和3年、子午線の正確な位置を確定する測量の標示板を公開します。

・「**記念植樹**」

校内の環境整備のため、樹木を伐採する一方、緑を残すため植樹します。



☆午後1時～3時50分☆

場所 明石市民会館（受付 12時）

・**第1部〈記念式典〉**

開式は午後1時。多数の来賓をお招きし、恩師・卒業生・在校生・関係者で大・中ホールを埋め尽くします。

・**第2部〈記念講演会〉**

開始は午後2時10分。野球解説者の古田敦也氏をお招きし、1部と2部の司会進行は、明高45回卒業生でフリーアナウンサーの赤江珠緒さんにお願ひしています。演題は未定です。

・**第3部〈記念演奏会〉**

開始は午後3時25分。ご高名な作曲家である保科 洋氏に、明石高校にふさわしい楽曲を依頼しています。新曲の披露他、音楽部に伝わる伝統的な曲を演奏いただく25分のミニ演奏会。お楽しみに！

☆午後5時30分～8時☆

場所 舞子ビラ

300名規模を想定し準備しています。卒業生の歌や演奏、ダンスなどで場をお祝いに花を添えたいと考え、企画しています。受益者負担の原則から、会費制（会費は6千円）とさせていただきます。参加ご希望の方は次ページ（お知らせ）をご覧下さい。

**記念行事 第4弾**  
**記念美術展の開催**

明石高校美術科が設置され、早や40年の時が流れました。その間、約1500名の卒業生が巣立ち、美術の世界だけでなく各界で活躍されています。

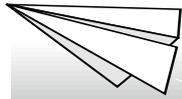
今年も1クラスの定員40名に対し、2倍近い受験者があり、合格発表の場では泣きながら抱き合う母子の姿も見受けられました。

しっかりと根を張り、成長を続ける美術科。100周年の記念行事として、関西・関東の2箇所で開催を計画しています。

美術科1回生は、明高38回生です。明高37回生までの方で、美術の世界で活躍しておられる方もいらっしゃると思います。今回の美術展は、普通科卒業の皆様も出品いただけます。有難いと考えています。本誌40頁の「美術科支部」のお知らせ欄に作品の出品に関するご案内が掲載されています。是非、一読願います。

▼**関西展**▼  
 期日…2023年11月22日～26日  
 場所…兵庫県立美術館（借用申請中）

▼**関東展**▼  
 期日…2024年2月28日～3月3日  
 場所…横浜市民ギャラリー



## お知らせとお願い

9月30日に挙行されます「式典・講演会」は、明石市民会館を借用して行います。会場の収容人数は、大ホールが1280名、中ホールが400名程度です。全校生徒960名に加え、来賓・現職員・同窓会役員・PTA役員の皆様が出席されますと、残り

席数がかなり少なくなります。実行委員会において、旧職員の先生方や卒業生の皆様に、出席いただくにはどうすべきかを相談いただきました。誠に心苦しいのですが、下記のようにさせていただきますので、ご了承をお願い申し上げます。

### 恩師諸先生方へ

同窓会で会報を郵送させていただきます。恩師の先生方は、約400名になっております。その内、旧職員代表としまして歴代校長先生、最近2年の間に転退職された先生、そして記念事業にご寄付をいただきました先生、以上の先生方に実行委員会としてご案内状を送付させていただきます。

記念誌にご協力いただいた先生方や、記念行事に手助けいただいた先生など、可能な限りご案内をしたいのですが、どうかご理解頂きたく、お願い申し上げます。

### 卒業生の皆様へ

#### ―式典等の市民会館 行事について―

現在、同窓会で住所の把握が出来る卒業生が約2万人です。その内、今回の記念事業にご寄付を頂いている方が、1200名にのぼります。市民会館の収容人数、生徒や来賓等を考えまして、卒業生で式典等に出席頂ける人数は250名程度と思われまます。同窓会役員会で検討しましてご寄付を頂いている方を優先して出席頂くこととし、希望の有無を事前に確認することになりました。結果、次のようにさせていただきます。この会報が皆様のお手元に届くのは6月中頃と思われまます。その後、振

込用紙を使ってご寄付に協力頂ける方もありますので、6月30日までにご寄付を頂いた方に、「往復はがき」をお送りします。

「往復はがき」の発送は、7月中頃を予定しています。式典等への出席を希望される方のみ返信をいただきますが、同窓会の割り当て席数を越える場合は、抽選とさせていただきます。抽選の結果は、8月に、ハガキでお知らせします。当選された方は市民会館の同窓会受付にご提示下さい。

#### ―記念「祝賀会」について―

舞子ピラ（JR舞子駅近く）での祝賀会は、開宴は17時30分お開きは20時を予定しています。来賓、現職・旧職の先生方、PTAや同窓会の役員、そして参加希望の卒業生の皆様で、300名規模を想定し、準備しています。セレモニーの後、歓談・会食をしながら、歌や演奏、ダンスなど、楽しいひと時を過ごしていただく計画です。受益者負担の観点から、会費制（会費は6千円）とさせていただきます。

参加ご希望の方は、届きました「往復はがき」の返信用で、祝賀会参加希望に○印を記入して投函下さい。後日、参加費納入用の振込用紙（郵便局専用）を郵送いたします。会費の事前納入された方を参加者として、お席を用意いたします。「事前申込なし」の方は、参加をお断りする場合がありますのでご了承をお願い致します。

● 会社訪問

放射線の安全利用を支援する企業

株式会社 千代田テクノロ



代表取締役会長  
細田 敏和氏 (高 14 回)

昨年 8 月の 2 日間、明石高校から西 茂樹校長(当時)、井壽 実先生、上田 修平先生と佐々木(高 18 回)の 4 名は(株)千代田テクノロ大洗(お

おあらい)事業所を訪問しました。(株)千代田テクノロは本校が令和 6 年度設置予定で進めている S T A E M 学科(本誌 P 4 参照)の連携企業のひとつとして、ご協力を要請し受諾頂いております。今回は最先端の会社設備や技術を見学させていただくとともに、今後の具体的な協働内容について協議させて頂きました。

代表取締役会長および最高経営責任者を務められる細田敏和氏は、明石高校 14 回生として 1962 年に本学を卒業の後、近畿大学理工学部原子炉工学科に進まれ 1966 年に前身の千代田保安用品(株)へ入社されました。

放射線は医療、工業、農業や原子力発電に広く活用され、現代社会では不可欠なものです。取り扱いは、放射線の種類・エネルギー・強さ・量を正しく把握して制御することが求められます。

(株)千代田テクノロは、放射線被ばく線量測定技術の世界最先端を担っており、放射線安全管理の基本となる、放射線取扱作業従事者の被ばく線量測定サービスにおいては、軍隊での使用を除く民生利用では、世界一の測定数量、規模の測定センターを運営しています。

細田氏は、社長は、社長就任間もなくの 2000 年に、創業以来 42 年間使用してきた被ばく線量測定器「ファイル



ガラスバッジ

ムバッジ」から、世界一の測定精度を誇る「ガラスバッジ」に切り替えを図り、世界一の測定サービス会社としての地位を確立しました。現在は IAEA(国際原子力機関)でも「ガラスバッジ」が採用され名実ともに世界一の信頼を得ています。

民間で唯一放射線源の製造頒布会社としても知られており、非破壊検査、放射線治療用の線源の供給を担っています。

同社は、がんの放射線治療装置販売でも国内のトップ企業の一角を占めているほか、国内すべての原子力発電所の放射線安全に寄与しており、原子力発電炉再稼働に必要な原子力防災対策にも国、原子力施設設置自治体からも期待されています。広大な大洗事業所の一角には、国内外で初めての「原子力防災機器展示棟」が建設され、内閣府をはじめ地方自治体関係者が見学・研修に利用されています。

各施設を見学させていただくと、(株)千代田テクノロは放射線取り扱い分野すべてで第一人者としての自負、重責を果たされていることへの責任感が伝わってきます。

大洗研究所は、わが町明石にも似て様々な船が行き交う海に面した素晴らしい街に位置し、民間では世界最大・最高性能の放射線基準照射・測定施設を有し、世界の放射線測定基準の維持向上に寄与されています。

2013 年には、大洗町大貫台に広大な土地を取得され、世界最高性能の「新型ガラスバッジ」による測定センターをスタートすると同時に「Hosoda Hall」と名付けられたコンベンションホールも併設されました。「Hosoda Hall」では、毎年、国内外の放射線モニタリングのトップクラス

の研究者約 200 名を招き、最先端の研究成果の発表・ディスカッションが行われており、今や大洗は放射線モニタリング分野のメッカと言われています。また Hosoda Hall では、毎年 11 月に大洗町民を対象にクラシックコンサート「Autumn Festa」を開催され、地元の文化活動に寄与されています。今回の訪問で最先端の技術や機器で社会に貢献できる会社のすばらしさを実感させていただきました。

(文責・佐々木)

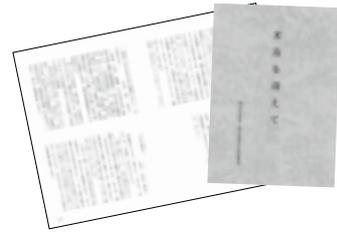


最先端の設備や技術を見学



イラスト・安藤 勉 (中18回)

### 『米寿の祝い』報告



「2年に一回の恒例行事」として継続していきます「米寿の祝い」は、高校5・6回生の皆様を対象として行いました。宴会を臨まれる声もあります。が、理事会では、「このやり方のほうが多くの方、遠方の方にも参加頂ける」と判断。作成した「文集」と「記

念品」の送付に変更、今後はこの形式を続けて行く予定です。

文集や記念品(校章・校名入り煎餅)が届いた方から、「卒業して7年も経っているのに、こんなことをしてくれる同窓会は聞いたことがない」「卒業後、一度も会ったことがない方のお名前を見て、懐かしくて涙が出ました、感謝です」などの礼状をいただきました。

来年は、7回生と8回生の皆様を対象です。夏ごろにお便り(原稿用の返信はがき同封)を出し、11月頃に文集と記念品を送ることになっています。

### 高校五回

### 明高開校100周年記念 米の賀に集う

戒井 皓二

令和5年(2023年)は、県立明石中等・高等学校創立100周年の良き年にあたり、その同じ年の3月31日、グリーンヒルホテル・明石にて「第5回卒業生米寿の集い」を催しました。

5年前同じ場所にて、「5回卒業65周年同窓会」を行った際の出席者が男女併せて38人だったのですがそのうち関西在住の33人の方々に声を懸けさせて戴きました。

男性が前回17名のうち29%の5名、女性が16名の56%の9名の方々が喜

んで参加のご賛同戴きました。なかには連絡の取れない方もありましたが、5年前に比べ約60%の方々が寄る年波には勝てずと残念がっておられました。参加者は男女併せて14名でした。

本同窓会開催に際し、自彊会の吉田先生が補助金を届けに、当日会場迄わざわざ来て下さったのです。誠に恐縮至極にて痛み入ります。しかも宴会への参加は控えられ、逆に差し入れまで頂戴し、重ね重ねの恐縮です。感謝申し上げます。

「米寿の集い」に参加の方々は久しぶりの顔合わせに話が弾み、和やかながらも賑やかに話に花が咲いたのです。

そして、最後には5回生でもあり、タカラジェンヌでもある方の指揮で明高校歌を斉唱し、またの会う日を約しながら幕を閉じたのです。



### 高校二十八回

森本 克茂



パンデミックとヨーロッパでの戦争の中、一つ光を求めて3年間母校で共に同じ空気を吸った仲間と「今ぞ集えし月」しませんかの呼びかけで、110名と3名の恩師が11月5日(土)明石グリーンヒルホテルに



集いました。  
 和田君の取り計らいで、母校校長西先生のビデオメッセージで会が始まりました。県高野連会長も務められ公務ご多忙の中、明石高校愛に溢れる校長先生から現役明石高校生の生き生きとした学びや全国大会等で活躍する後輩たちの姿の紹介があり、昔の自分たちを少し思い出し元気を頂きました。

安田先生、柴原先生、山本先生のお言葉を頂きながら、楽しい歓談が始まりました。あちこちで記念写真や久しぶりの再会にハグする姿も見受けられました。そんな中で御年92歳の山本先生の「高齢化社会にあつてボケるどころか感動と共に生きる秘伝」が幹事から紹介され、「ウオー」

と皆さんが盛り上がりました。  
 締めは和田会長から母校100周年記念行事準備の進捗状況の説明があり、ワクワクする内容もありました。卒業後50年になる3年後の再会の提案もありました。そして「今ぞ誓えし月」の大合唱のもと閉会となりました。参加頂いた皆さん、諸事情で参加できなくても熱い思いを届けて頂いた皆さん、ありがとうございました。

**東京自彊会「総会・懇親会」**

長尾昌男(高18回)

2022年11月12日、千代田区隼町の「ホテルランドアーク半蔵門」3階「花の間」にて、3年振りの「総会・懇親会」を母校から西茂樹校長をお迎えして開催しました。自彊会本部からは和田会長と副会長・美術科支部長の鷺森さんに参加頂きました。コロナ禍のため2021年は開催を見送り、2022年に佐々木知子会長のもと41名での開催となりました。

総会では、会長挨拶・会計報告の後、西校長の現状説明、鷺森副会長からは100周年の美術展説明を頂きました。原テツアキ前会長からは祝電が届きました。

懇親会のオープニングは、佐々木会長のピアノ演奏でショパンの「ノクターン」で幕開けし、和田自彊会

会長のご挨拶と「乾杯」のご発声で、会食と歓談が始まりました。歓談尽きない所でしたが「いい日旅立ち」と「花は咲く」の2曲を佐々木会長のピアノ伴奏でみんなで歌いました。エンディング前に出席者の内、大先輩の芦田邦弘様(高7回生)よりご挨拶を頂きました。芦田様の父上様は母校第3代芦田邦一校長(昭和27年4月〜昭和33年3月)で2人して校門をくぐられた様です。



そしてエンディングに進み「明石中・明石高」の校歌を佐々木会長のピアノ伴奏で斉唱しました。最後は「応援歌」で、母校の100周年と明石高校にエールを送りました。当日の総会司会は幹事の原秀子さんに務めて頂きました。  
 次回は、2024年11月頃に開催する予定です。



**\*\*\*\*\*東京自彊会 役員\*\*\*\*\***

会長	佐々木 知子 (高25)	幹事	杉山 清昭 (高29)
副会長	長尾 昌男 (高18)		清水 真美 (高35)
	三木谷 浩 (高35)		丸山 晃 (高41)
	阿随 秀昨 (高39)	監事	細田 敏和 (高14)
幹事	田中 耕三郎 (高15)	顧問	和田 直樹 (高28)
	桑原 哲朗 (高18)		自彊会会長 久 (高14)
	小林 和夫 (高18)		第2代会長 テツアキ (高21)
	小鈴木 秀和 (高20)		第3代会長 雄 (高21)
	坂田 俊彦 (高23)		北中 睦雄 校長
	原 秀子 (高23)		明石高校
	佐藤 佐喜子 (高25)	元顧問	濱口 臣邦 (高5)
	岩田 拓也 (高28)	(故人)	初代会長

# 73回生 二十歳の集い

## 4年ぶりに開催!!

学年主任 山中 良秀

令和5年3月21日、4年ぶりに同窓会主催『二十歳の集い』が開催されました。思えば、3年前から新型コロナウイルス感染拡大のため登校禁止となるなど様々な制約がある中で3年間でした。この学年も、「さあ、これから3年生」という時期でした。このような制約のある中、高校から次の進路へと進み、この日は100名を超える仲間が集ってくれました。通常の時であってもなかなか100名を超えることはありません。さすがに、波を創る73回生」と感心することしきりです。近況を見ると、それぞれが夢を持って前向きに取り組んでいることが伝わってきます。誇りに思える学年です。

ちょうど学年カラーが青だったこともあり、学年通信タイトルは「Be A GIANT! NEW BLUE WAVE WE ARE THE CHAMPION!」とし、キャッチフレーズを「Catch the Wave」・「Make the

Wave」としたことを思い出します。「明石高校のあるべき姿を追求しよう」[「明石高校に新しい波を起こそう」と共に取り組んでくれたことを思い出します。1年生の時から「地域清掃と大蔵海岸B B Q」という新しい形の遠足をスタートさせるなど、新しい波」を創ってきました。そして今、4年ぶりに『二十歳の集い』を復活・創造するという、新しい波」を創っています。73回生はどうやら様々な場面で、新しい波」を創る役割があるのかもしれない。

73回生の皆さん、これからが人生本番です。上手く行くとときも、そうでない時も理不尽なこともあると思います。でも、大切なことは「諦めないこと」「視点を変えること」「気長に構えること」と思います。上手く行かなくても、それは次のステップへの土台となります。あせらず、あわてず、あきらめず、人生に、新しい波」を創って行きましょう。人生を充実させましょう。皆さんのこれからの活躍に大いに期待しています。今回の開催に關しまして、ご理解、ご協力をいただきました同窓会の皆さま、関係の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。



### 入会あいさつ

安田 圭 佑 (高75回)

この度は、私たち75回生309名の自彊会入会をお認めいただき有難うございます。

明日、私たちはこの明石高校を卒業し、それぞれの進路に向かって進んで行きますが、進む道は違っても自彊会の誇りを持ち、母校明石高校の伝統に恥じない大人になるようこれからも努力してまいります。

まだまだ若く、いたらない私たちではありますが、どうぞこれからもご指導のほどよろしく願っています。



第75回卒業式

### 高校十三回

### 首都圏同窓会

隅田川界隈を散策

竹内 信 六 (高13回)



昨年10月12日、14名が出席して、首都圏同窓会が3年ぶりに開かれました。私も明石から参加しました。

今回のテーマは「隅田川と能『隅田川』の世界」。東京スカイツリー近くの東武鐘ヶ淵駅に集合し、高木卓司幹事の案内で古代東海道(官道)

と鎌倉街道下道しもつちみちを歩き、隅田川界隈の梅若塚↓木母寺↓隅田川神社を散策しました。

能「隅田川」は、一粒種の梅若丸を人買いにさらわれ、京都から武蔵国・隅田川まで流浪し、愛児の死を知った母親の悲嘆を描いた観世元雅の作品です。

浅草近く、高層階の見晴らしの良いレストランで食事。傘寿を迎えた(未だの人も)近況を報告し合いました。健康、手術、伴侶の死去、孫のこと、100周年記念事業など話題は尽きませんでした。

### 学年同窓会の告知、お知らせ

新型コロナウイルス禍のため自粛していた学年同窓会が続々と開催されます。還暦、喜寿など節目を記念する同窓会も多く、久しぶりに旧交を温める機会になることでしょう。

#### 高校5回生

3月31日(金)  
グリーンヒルホテル明石にて米寿の集いを開催しました(本誌10ページの紹介文をご覧ください)。

#### 高校17回生

5月25日(木)  
舞子ビラにて同窓会を開催しました。

#### 高校19回生

5月24日(水)  
ホテルキャッスルプラザにて同窓会を開催しました。

#### 高校23回生

6月3日(土)  
神戸メリケンパークオリエンタルホテルにて古希記念同窓会を開催しました。

#### 6月以降の開催予定です。

#### 高校13回生

10月20日(金)  
グリーンヒルホテル明石にて同窓会を開催する予定です。

#### 高校21回生

10月21日(土)  
ホテルキャッスルプラザにて古希記念同窓会を開催します。

#### 高校22回生

古希記念同窓会に向けて準備したいと思っております。

#### 高校24回生

2024年4月末頃  
古希記念同窓会を開催する予定です。

#### 高校26回生

10月14日(土) 15時~16時  
母校にて同窓会を開催予定。  
詳細及びお申し込みはQRより



#### 高校31回生

9月23日(土)  
神戸ポートピアホテルにて還暦記念同窓会を開催します。

問合せ 吉田信次(hi\_yossan@yahoo.co.jp)様。

#### 高校32回生

8月12日(土)  
ホテルキャッスルプラザにて還暦記念同窓会を開催します。

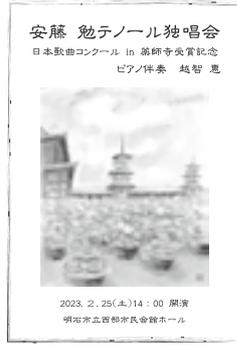
#### 高校33回生

旧3年3組の方が担当で、還暦同窓会を検討していただきます。

# 自彊不息

このコーナーは、各界で活躍されている方、自分の夢を追い続ける個性的な方を紹介するものです。

今回は、95歳というご高齢にもかかわらず、豊饒として声楽や絵画を楽しみただけでなく、これらを通じて今なお社会との関わりを深め、人生を謳歌されている方を紹介させていただきます。



独唱会は自彊会ホームページのスポットライト欄で紹介中

## 安藤 勉 氏 (中18回)

2023年2月25日(土) 明石市立西部市民会館ホールで、安藤さんのテノール独唱会が開催されたので行ってまいりました。

この独唱会は、昨年7月に開催された「第3回日本歌曲コンクール in 薬師寺」において、シニア賞を受賞されたことを記念して行われたもので、同ホールの500席が満席になるほどの盛会となりました。

安藤さんは、明石中学18回卒という我々

の大先輩ですが、お年を感じさせない背筋がまっすぐに伸びた姿勢で、マイクなしの後方座席まで届く朗々たる美声を響かせ、「早春賦」や「宵待草」などの日本抒情歌12曲、カンツォーネやオペラのイタリアなどの外国歌曲10曲、アンコールの2曲と併せた計24曲を約2時間にわたって熱唱されました。

途中「私たちの花」の歌い出しのキーを取り違え、ピアノ伴奏の越智恵さんの方から指摘されて、照れ笑いしながら歌い直すという微笑ましいエピソードもありましたが、大喝采のうちに終了しました。

安藤先輩のこのような独唱会は、第1回の喜寿(2004年)から第6回の卒寿(2018年)を経てのもので、その他にミニリサイタルが100回にも及ぶということですが、その間の2013年には、摂津市で開かれた「リトルカメラリアコンクール(35歳以上部門)」で金賞を受賞され、翌年にはリトルカメラリア推薦コンサートで日本センチュリー交響楽団と共演されたことは特筆すべきことでしょう。

安藤先輩は元々音楽が好きで、長年謡曲を習われていましたが、その練習中に異常を感じた声帯ポリプを60歳の頃に手術して謡曲を諦めざるを得なくなり、その後暫くは音楽から遠ざかっておられました。

62歳頃から大阪フロイデ合唱団や明石混声合唱団等に参加されて、いましたが、合唱だけでは物足りなく感じていたところ、大阪フロイデ合唱団で発声指導をされていた橘茂氏から教えて頂けることになり、会社退職後の66歳から歌を始められたそうです。

橘氏の留学で指導を受けられなくなつた後、幸いにも加古川シテイオペラ参加時に知り合った中村雅幸氏からフスラー発声法を中心とした発声と歌唱法の指導を受け、2008年からは現在まで、花畑昌克氏から森山式発声法を中心とした指導を受けられています。

レッスンを始めた頃は、「今頃から歌を」と呆れられたりもしたそうですが、一種の筋肉である声帯自体は老化しないと聞いたことを糧として、声帯を通る呼吸を維持強化する為に、週2回スポーツクラブで筋トレや水中ウォーキングなどの鍛錬を続けるとともに、食事にも気を遣われ、発声の工夫や研究も行って現在に至っているということでした。

現在は、音楽活動の一環として、姫路市の御野スイートホームや高松市の合唱団ミュージックウェイといった合唱団に参加するほか、毎年1月末には姫路市で、5月にはいなみの学園高齢者大学で、歌と健康をテーマにした講演も行っておられます。

自彊会の役員会開催日等では、未だに明高前バス停から小走りで資料館まで進まれるお姿をお見かけしており、お元気で澁刺としている様子からすると、次は白寿で美声をお聴かせ頂けるものと期待しております。

また、安藤先輩は水彩画にも優れた才能をお持ちで、ここ数年の自彊会だよりの裏表紙の絵を担当して頂いているので、自彊会会員にはお馴染みのところかと思いますが、今回のリサイタル会場にも、自身が描かれたヴェネツィアのサンマルコ広場の水彩画が飾られていました。先輩は、図画は得意ではなかったそうですが、海外出張が多かった50代半ばの頃に、

写真より絵の方が記憶に残るのでとは考えて小巻先生の元で水彩画を習い始め、学生時代に培った機械部品の製図技術を生かしたスケッチを褒められて気分良くスタートし、構図や水彩技法、質感表現などを学ばれたということでした。

関西水彩画会委員の松井美保子先生に指導を受けるようになってから同会展への出展を勧められ、2年連続入賞での会友推挙や会員推挙を経て、現在は会員として3月出展がノルマの大作を準備する傍ら、秋の兵庫県総合水彩画展にも出展し、月2回姫路市の水彩画教室で講師を務めるほか、火曜スケッチ会での写生や明石勤労福祉会館での人物デッサンもされるなど忙しくしておられます。

安藤先輩からは、戦時中のキシロ鉄工所(現株式会社きしろ)への勤労動員や、勤めておられた東洋紡に関することなども含めて、多岐にわたって色々お話し頂きましたが、4時間近くの間お疲れの様子も見せず、二回り近く下の年齢の我々より遥にお元氣な姿に、歌に水彩画にと今後も益々活躍されることと確信した次第です。



(文責：藤丸・長塩)

チャレンジ明高!!

'23年4月 進路 結果

継続は力なり

75回生学年主任 櫻井 寛員

春風が心地よい季節から新緑が若さ溢れる頃となりました。自彊会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

明石高校では去る3月1日に第75回卒業式が挙行され、男子132名、女子177名の計309名が母校を巣立ちました。入学時より新型コロナウイルスの影響で、様々な教育活動が制限される中、自彊会の皆様には多大なるご支援とご協力をいただきましたこと、深く感謝致します。多くの困難にも負けず、75回生の生徒たちは明石高校の建学の精神である「自彊不息」の下、勉強に部活動に自ら進んで努力し、励んでくれました。生徒たちが、明石高校で学び、過ごした3年間が満足のいくものであったなら、嬉しい限りです。さて、今年度開校100周年を迎え、さらに令和6年度にSTEM探究科単位制が開設される新進明石高校にとって、75回生の卒業後の進路が最大の関心事になることです。75回生の生徒たちは非常に真面目で、補習の参加者も多く、欠席する生徒もほほいせませんでした。それだけに、われわれ教員の責任も重大でした。受験生として、意識を持って第一志望校を定め、受験勉強をスタートさせた生徒には受験生宣言を提出してもらいました。3年4月には第一志望届を全員に提出させ、早期の

受験に対するスタートを促しました。ところがわれわれが思っている以上に進路実現に不安を持っている生徒・保護者が多く、学校推薦型選抜(指定校推薦)の希望者が少し多くなり、精神的につらい状況もありましたが、「諦める」というカードを最後まで切らせないように、生徒が選んだ進路に自信を持って向かえるよう、継続して学年団一致団結して指導に当た

りました。まず、就職関係ですが、希望者4名は選肢肢が少なにもかかわらず、自分がやりたい職業をしつかり調べ、希望の企業の合格を勝ち取ってくれました。専門学校希望者や短期大学希望者も然り。「将来即戦力として活躍できるスキルを磨く」といった、しつかりとした目標をもって学校の特徴を理解し、自分に合った学校を選び、合格してくれました。次に4年制大学進学関係です。国立大学進路状況では、昨年度から1学年8クラスになりましたが、8クラス規模で国立大学現役40名は目標の一つでありましたので、生徒たちはよく健闘してくれました。特に、「明石高校の生徒たちが「最も行きたい大学」の一つである兵庫県立

大学に10名の現役合格者が出たことは特筆すべき点ではないでしょうか。国立大学の結果は、関関同立、産近甲龍と合わせ139名の合格者数を出しました。「遠くの国立大学より近くの私立大学」傾向が強くなっています。まだまだ私立大学の合格者定員の遵守により、厳しい状況が続いていますが、合格者の多くが第一希望として、私立大学に合格してくれています。学校推薦型選抜や総合型選抜で合格しても一般入試までチャレンジする生徒も多く、後期試験まで頑張り、嬉しい結果を勝ち取った生徒もいました。進路の多様化、新型コロナウイルスの感染拡大による社会の変化で、国家資格が取れる医療系の大学は人気も高かったように思います。

自分自身が進路実現という目標に向かって頑張っているとき、周りが見えなくなるときもありません。しかし、周りの友人が頑張る姿を尊重できる生徒も多く、「75回生の団体戦」として、学年が同じ目標に向かい努力し頑張ってくれた姿勢には、頭が下がる思いでした。また、校長先生、教頭先生、進路指導部の先生方にも面接指導をお手伝いいただき、まさに「チーム明高」として進路指導に臨んだことが結果に繋がったと思います。このように、75回生の生徒たちが、自分たちの進路実現のため、真剣に努力を続け、今後に期待できる有意義な成果を後輩たちに残してくれたことを誇りに思っています。

明石高校過去3年間の進路実績

Table with 4 columns: 大学名, 21年, 22年, 23年. Includes sub-sections for 国立大学 and 公立大学.

Table with 4 columns: 私立大学, 21年, 22年, 23年. Lists various private universities and their enrollment numbers.

Table with 4 columns: 公立大学, 21年, 22年, 23年. Lists various public universities and their enrollment numbers.

Table with 4 columns: 他国公立学校, 21年, 22年, 23年. Lists other public and private schools.

数字は合格総数、( )内は既卒生の合格数 令和5年3月29日現在

# お世話になりました

生まれ変わろうとする

明高での長く短い1年

教頭 内藤 仁視



昨年4月に「本年度4月に教頭として着任しました。どうぞよろしくお願いたします。」

とあちらこちらであいさつをしたばかりのような気がしますが、1年後には新たな辞令をもって私の長く短い明高生活は終わりを告げました。

その間、わずか1年とは思えない多くの出会いや経験、学びがあり、私の生涯にとってとても大きな意義のある時間になりました。中でも明石高校の伝統と歴史を肌で感じる創立100周年に向けた動きと、ダイナミックな変革の波に乗って進んでいく「STEM探究科」設置に向けた学校改革の動きは、とても目まぐるしく、他では味わえない体験だったと感じています。

残念ながら100周年の記念式典や「STEM探究科」開設の瞬間を現地でも味わうことはできませんが、近くの学校からお祝いしながら見守っています。

最後になりましたが、在任中は自彊会の

会長様をはじめ多くの役員、事務局の方々にいろいろとご指導いただきましたこと心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

明石を臨む

難波 牧人



明石高校では67回生の生命科学探究類型のクラス担任の後、70回・73回生学年団でお世話に

なりました。思い起こせば40年以上前、大卒を卒業し臨時講師として淡路島に赴任したのが教師生活の始まりになります。明石海峡大橋が夢の架け橋と言われていた頃で、年季の入った小さく心もとない播淡汽船に乗って明石海峡を渡りました。生きて本土に帰れるのか不安な気持ちでした。当時の島民の多くが本土への憧れを抱いていたのと同様に、明石への思いが湧いてきました。そして10年前、導かれるように本校赴任が告げられ、最後の赴任地になるという決意で、初心に戻り5年間勤めることができました。更に再任用の5年は奉公する決意でしたが、結果的には多くの先生方に助け

れ、明るい生徒達に恵まれて楽しく過ごすことができました。物理の授業は毎時間が生徒にとっても私にとっても修業のようでしたが、ワンダーフォーゲル部の顧問として山を歩き続けられたことは、同じ意味で大きな楽しい思い出となりました。明石海峡は、六甲山はもちろん県内陸部の山々からも臨むことができます。100周年を迎える明石高校の益々の発展を祈念し応援していきたいと思えます。ありがとうございます。

「青空や花は咲くことのみ思ひ」

100年の伝統と風格に包まれて

岩崎 善行 (高29回)



教員生活の最後に、母校に帰ってきました。2年前の4月、30数年ぶりに校庭に足を踏み入れて、100年の伝統が息づく校庭の樹木の風格に圧倒されました。校門入ってすぐのクスノキは、私が卒業した当時はサングラスロードの中にあり、みんなに親しまれた樹です。また、生徒昇降口の裏側に旧地学教室前のクスノキの巨木を囲むように校舎が作られていることに感激しました。

生物教室には、90年位前の生徒が丁寧に作成した植物の標本が大量に残っています。

た。専門家の人に見てもらおうと、極めて貴重で学術的価値の高い標本であることが分

かりました。今、デジタル化の作業を進めています。私たちが昔地学部員として集めた化石などもそのまま残っています。校内の至る所に、100年の伝統が息づいています。穏やかで和やかな生徒と教師の関係も、この落ち着いた校庭の雰囲気醸成しているように思います。

昨年度末で再任用を終了しましたが、今年度もこの母校で、時間講師として、母校のためにがんばります。

感謝

野内 仁輝



明石高校では6年間お世話になりました。初年度は72回生の学年付、

その後4年間は理数探究類型・広報部長、最後の1年は進路指導部長をさせていただきました。

特に理数探究類型・広報部では、理数探究類型を再び1クラスにまとめて課題研究を実施しました。週に1時間もないような短い時間でしたが、どのグループも熱心に研究活動に取り組みました。みなさんの研究は、どのグループも自分たちで実験、観察、検証を行っている、大阪大学の山口和也

教授に評価していただいたことがとても誇らしかったことを覚えています。理数探究類型は今後、STEM探究科としてさらに発展されることを願っています。またどこかの研究発表会で明高生の発表を聞けることを今から楽しみにしています。

創立100周年という大きな節目を迎えられる年に、明石高校を離れてしまうのはとても残念ではありますが、明石高校のさらなる発展を祈念しております。6年間ありがとうございました。

**自彊が丘**



**奥田 智子**

管理棟と教室棟を結ぶ渡り廊下が足元までガラス張り  
で、明るい校舎だ

などという第一印象を持つてから早7年。71、74、75回生の担任を務めさせていただきました。

春は校門近くにサクラが咲き誇り（化学室がお花見の穴場スポット）、初夏には学生会室横にピワ、秋には音楽棟北側にカリンや講堂南側にオリーブが実るなど、四季折々の楽しみもありました。明高生はからりと明るく、文化祭や体育大会への取組みが積極的でみんなが頑張っている姿を見て、一緒に早朝や放課後の準備・練習に参加した

ことも楽しい思い出です。また学年が上がると放課後図書室で遅くまで勉強する姿も見られ、微力ながら進路実現の力添えをしたいと思いました。

後半の3年間は世界的に不測の事態となり、分散登校やマスクで聞こえづらい授業、修学旅行など行事の中止…生徒とともに戸惑うことが多くありました。しかし、そんな中でもできることを探して充実した高校生活にしようとする明高生の底力を見ることもできました。

新学科の設立など、今後更なる進化を見せる明石高校の益々のご発展をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

**どうして明高へ**

**恩返し**

**松原 史弥 (高65回)**

この度県立西脇北高等学校より赴任しました松原です。約10年ぶりに母校に戻ってくることで、大変嬉しく思います。

在学当時先生方から教えていただいた事を、今度は教員として明高生に教授していきたいと思えます。まだまだ若輩者ですが、少しでも明石高校に恩返しできればと思っています。また、「自彊不息」の建学精神に即した人物を育成し、卒業時に「明石高校に入学してきてよかった！」と明高生に思っ

てもらえるように力を尽くしたいと思えます。今後ともよろしくお願い致します。

**ご縁を大切に**

**八巻 彩未**

この度、県立加古川南高校より赴任いたしました、八巻（やまき）です。実は自身が中学生の頃、明石高校美術科の説明会に参加したことがあります。美術科棟全体が醸し出す重厚感や特有の絵の具の匂い、ざらりと並ぶ授業作品に圧倒されたことを今でも鮮明に思い出します。しかし当時の私は美術科を受検する決心がつかず、普通科の高校に進学しました。

大学進学を考えるうえで美術の勉強をしたいという気持ちは捨てられず、結局、美術系学部のある大学へ進学。毎日作品制作に追われ辛いこともありましたが、それ以上に作る喜びを感じられる日々でした。その後、兵庫県で美術の教員として採用していただき、現在に至ります。まさかこうして明石高校で過ごす日が来るとは。ご縁をいただいたことを大切にし、自分にできることを精一杯頑張っていきたいと思います。どうぞよろしく願っています。

**心機一転**

**筏 信一郎**

この度、県立山崎高等学校から異動してまいりました。教科は地歴公民です。よろしく願っています。明石高校への異動

がきまったとき、伝統と歴史あるこの学校の一員となれることをうれしく思うと同時に、身の引き締まるような思いでいました。前任校でもたくさんさんの経験をさせていただいたので、そうした経験を活かしながらも、新しい環境の中で、様々なことを一から勉強するつもりで心機一転頑張らせていただきます。

明石高校に着任させていただいて数日、元気に挨拶してくれる生徒や、部活動に励む生徒の様子を見て、本当に活気のある良い学校だなと感じました。身の回りの環境がめまぐるしく変化していく現代社会において、高校生としての3年間は生徒にとって非常に重要かつ貴重な時間になると思いますが、生徒の成長を少しでも手助けできるように尽力させていただきたいと思えます。



放送部

『できる時』に『できる事』を！  
『できる事』にはチャレンジを！  
THIS IS 放送部！  
『全国大会・甲子園からボラン  
ティア、農園作業まで何にでも  
チャレンジ！』明石高校初！  
価値の創造！！

顧問 山中 良秀



自彊会の皆さま、いつもお世話に  
なり、ありがとうございます。第24  
号以来のご報告をさせていただきま  
す。2017年、朗読部門で40年ぶ  
りに全国大会へ出場させていただい  
て以降、しばらく全国大会までは進  
出できず「また40年か」、そうなる  
と生命が無い！」などと思いつなが  
ら過ごす時期が続きました。が、コロ  
ナ禍での制約が残る中で部員はよく  
頑張ってくれました。この間、全国  
には届かないものの子どもの館朗読  
コンクールでは2年連続で決勝に進  
み、ついには第1位になった部員も  
出てきました。明石高校初の出来事

です。

そして、2022年、その頑張り  
がNHK杯にも表れてきました。5  
年ぶりに全国大会へ進出することが  
できました。今度はアナウンス部門  
での進出です。すると、思わぬ副  
産物がありました。なんと、高校野  
球の開閉会式での司会進行の大役が  
巡ってきました。第104回全国高  
等学校野球選手権兵庫大会閉会式、  
第67回全国高等学校軟式野球選手権  
大会開始式・閉会式と3度も大役を  
務めさせていただくことができました。  
これまでは高校野球の司会進行  
など全くの他人事だっただけに、顧  
問としましても、『夢』のような時間  
を過ごすことができました。もしま  
かすると、いつの日か、『放送部甲子園  
初出場（ちなみに野球部は14回出場、  
21勝14敗、昭和62年以来的の出場を多  
くの方が祈念中）』もあり得るかも  
しれません。これまで『夢』にする  
ことも畏れ多いものでしたが、『夢』  
にしてもいいのなと思えるようにな  
りました。その他、2022年は第  
41回全国豊かな海づくり大会兵庫大  
会『御食国ひょうご』にも関わらせ  
ていただきました。

2023年は、早速、ラジオ関西  
主催の『はたちの献血』キャンペー  
ンCM作成からのスタートです。こ  
れからも、『明石高校初』を実現する  
ことができるよう取り組み、少しで  
も部員の可能性を大きくすることが  
できればと思います。今後とも、ご  
支援いただきますようよろしくお願い

いたします。

最後に、この3年間、コロナ禍に  
大きな制約を受けながらもしつかり  
と取り組んでくれた2023年3月  
卒業の部長・副部长からの思い、当  
初1名ながら頑張っている部員の思  
いも、記載させていただきます。

放送部部长・村上 愛（高75回）

私は恵まれていきます。振り返れば、  
新型コロナウイルスに多くのものを  
奪われた、と言っても過言ではない  
高校生活だったように思います。い  
え、『冷静になって』振り返れば、と  
いった方が正しいかもしれませんが、  
世間一般に見ればその認識は間違っ  
ていませんが、当人としては『否』  
と答えるほかありません。楽しかつ  
たのです。何かの催し事が中止され  
る背景には必ずと言っていいほど、『新  
型コロナウイルス』がありました。が、  
その度先生方は代案を考えてくだ  
さっていました。高校生活に飽きな  
どないのです。新しいことばかりで、  
失ったものを数えることは早々にや  
めました。

私にとっては部活動もその一部  
だったので、『例年』という言葉  
が当てはまらない三年間でした。そ  
のため変なプレッシャーもなく伸び  
伸び活動ができました。お昼のラジ  
オ放送やリクエスト、放送部とは一  
見関わりのない花植えまで新しいこ  
とを挑戦しようと思えたのは、黙食  
の味気無さや校内の変な静けさが嫌  
だったからです。

人事異動

☆ 転任 ☆

- 西 茂樹 先生 [校長] (県立武道館へ)
- 内藤 仁視 先生 [教頭] (加古川東高校へ)
- 泥 健二郎先生 [事務長] (加古川西高校へ)
- 難波 牧人 先生 [理科] (退職)
- 岩崎 善行 先生 [数学] (退職)
- 久保田 毅 先生 [国語] (退職)
- 前田 信 先生 [体育] (退職)
- 朝長 耕平 先生 [数学] (姫路別所高校へ)
- 岩橋 嘉大 先生 [地歴] (加古川東高校へ)
- 奥田 智子 先生 [理科] (青雲高校へ)
- 野内 仁輝 先生 [理科] (明石北高校へ)
- 岡部 直美 先生 [英語] (姫路東高校へ)
- 山本 尚子 先生 [美術] (夢野台高校へ)
- 三谷 美妃子先生 [国語] (いなみの特別支援へ)
- 森内 大貴 先生 [実習] (親和中・高校へ)
- 藤村 菜葉子先生 [事務] (二見中学へ)
- 神野 法啓 先生 [事務] (高校教育課へ)
- 野崎 尚代 先生 [事務] (加古川西高校へ)
- 野崎 尚代 先生 [事務] (兵庫工業高校へ)

成功まで漕ぎ着けたのは、学校の環境と先生方、仲間と顧問の先生がいたからです。ありがとうございます。

新型コロナウイルスがあるから失ったものがあるなら、得たものもあるはず。私はそれを得ました。タラレバの話ややるせなさを、いつか叶える「夢」に昇華する術を。後悔のない選択よりも後悔のない選択にする努力の仕方を。今ある幸せに目を向ける方法を。

私は恵まれています。素敵な仲間と先生に出会い、素敵な思い出を、例年通りではなかった高校生生活を過ごして卒業します。きっと例年通りではない私たちにしか掴めない未来もあるはず。関わりがあった方々に感謝するとともに、両親にも精一杯のありがとうを伝えたいと思います。



### 硬式野球部

「己を信じる 仲間を信じる」

顧問 高石 耕平

タイトルは現在野球部グラウンドのバックネットに掲げられている看板のフレーズです。もしかしたら以前の「闘志なき者は去れ」を記憶している方の方が多くないかもしれません。

私は、このフレーズの中でも特に「仲間を信じること」がとても大切だと考えます。例えば、次打者を信じて送りバントで走者を進める。野手が守ってくれると信じてストライクを投げる。バックアップに来てくれると信じて思い切って送球する。仲間を信じることで、互いに信じあうことで好プレーにつながるのが野球です。

部員たちはこの言葉を胸に日頃から練習に取り組み、試合に臨んでいます。年を重ねるごとにチームワークがよくなっていると感じます。なかなか試合結果には表れていませんが、少しずつ、投手を中心に粘り強く守り、走者を堅実に進めて得点に結びつけるというチームの形が出来上がっています。あとは、ここ一番での勝負強さです。攻める気持ち、絶対に勝つという強い気持ちをプレーで表現できるようにすれば結果もついてくると信じています。

このたび、100周年行事として

中京大中京と記念試合を行う機会を用意していただきました。硬式野球部OBや同窓会の皆様の期待が集約して実現したものと思っています。部員たちにとっても貴重な経験であり、力を伸ばす絶好の機会となります。ありがとうございます。



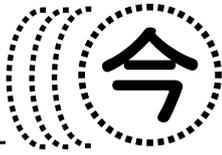
### ☆ 着 任 ☆

- 北中 陸雄 先生 [校長] (県体育保健課より)
- 山本 幸生 先生 [教頭] (東播磨高校より)
- 岸本 啓子 先生 [事務長] (県教育振興会より)
- 林 考輔 先生 [理科] (明石城西高校より)
- 多田 裕助 先生 [数学] (洲本高校より)
- 筏 信一郎先生 [地歴] (山崎高校より)
- 今安 智之 先生 [体育] (尼崎小田高校より)
- 西田 浩幸 先生 [数学] (加古川西高校より)
- 松原 史弥 先生 [地歴] (西脇北高校より)
- 河本 裕之 先生 [理科] (明石北高校より)
- 小林 健司 先生 [理科] (明石清水高校より)
- 三浦 英碩 先生 [英語] (加古川西高校より)
- 八巻 彩未 先生 [美術] (加古川南高校より)
- 藤田 俊正 先生 [国語] (神戸北高校より)
- 永峰 幸奈 先生 [実習] (新採用)
- 大矢 梓 先生 [事務] (舞子高校より)
- 坂本 宗宏 先生 [事務] (西神戸特別支援より)
- 小山 寿子 先生 [事務] (民間より)

# 男子ソフトボール部

顧問 市毛 啓之

2020年4月7日に発令された緊急事態宣言により、過去に類を見ない新年度の始まりとなった。入学式、始業式が行われただけですべての学校生活を止めざるを得ない事態



# 讚える



となった。総体は中止となり、ようやく登校が再開した6月、グラウンドに活気は戻らなかった。再開したと言っても登校できるのは全校生徒の半数、さらには部活動の時間制限など多くの制限が設けられていたからだ。緊急事態宣言から半数登校の期間が男子ソフトボール部にとって大きなダメージを残すこととなった。例年、先輩たちの元気で楽しそうな姿を見て男子ソフトボール部への入部を決める新入生が多くいたが、活気のないグラウンドを見て新入生にソフトボール部の魅力を感じてもらえなかった。全校生徒の登校が可能になっても新入部員は来なかった。粘り強く勧誘を続け、ようやく新入部員を迎えたのは2学期に入ってから。それも野球やソフトボールの経験がない生徒1名だった。幸い先輩10名後輩9名に恵まれ、人数が少ないうながら練習メニューを工夫し、一年一着実に実力を伸ばしていった。そして、迎えた2022年6月、3年生1名にとって最後の総体予選。

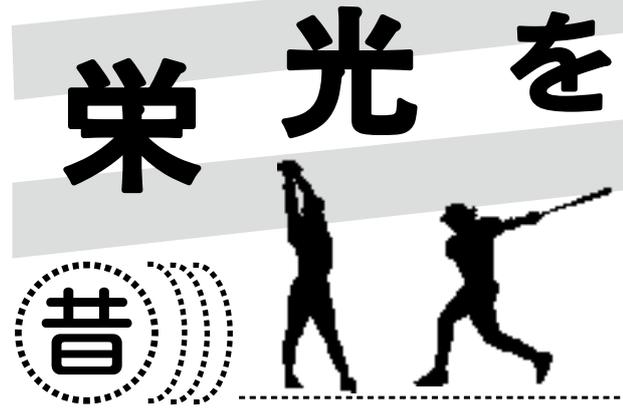


新型コロナウイルスによる大会中止前は4季連続で全国大会に出場していたが、中止を挟み2年間全国大会から遠ざかっていた。実力を順調に伸ばしてきたと言っても人数の少ないチームにとって、まだまだ兵庫県で優勝するのは厳しい状況だった。迎えた初戦の相手は前年度新人戦優勝校である神戸野田高校。初回に1点を先制するも追いつかれる苦しい展開となる。その後両チーム得点を奪うことができず、決着がついたのは延長9回。相手ショート手の失策による得点で勝利となった。延長を戦い抜いた1時間後にすぐさま準決勝を迎えるという体力的に厳しい状況の中、シード校を相手に勝利を収めることができた。迎えた決勝戦。一進一退の攻防が続く苦しい展開となったが何とか優勝を勝ち取ることができた。近畿大会では準優勝。そして、全国総体の1回戦、開催地の大応援団の支援を受ける須崎総合高校相手に4点差をひっくり返しての逆転勝利。優勝校の長崎県大村高等学校に負けはしたものの初心者キャプテン

率いるチームは全国ベスト16という結果で終えた。県総体から全国総体まで厳しい試合展開を何度も迎えたが、その度に「キャプテンのために」という合言葉のもとチーム一丸で乗り越え、試合を追うごとに成長していった。

1名の新入部員というところからスタートとなったが、あきらめず粘り強く続けてきたからこそ最後に最高の結果を残すことができた。県総体前は近畿大会に出場できるかどうか、と自分自身思っていたが、それをはるかに上回る結果を選手たちが残してくれた。苦しい展開を幾度となくはねのける選手たちの姿は頼もしく、一戦一戦成長していく姿に高校生の持つ無限の可能性を感じた。指導者が限界を決めず、生徒の可能性を信じることの大切さを選手たちから再認識させられ、このチームの監督ができたことを誇りに思うとともに、このチームを超えられるチームを作れるように、選手と共に努力していきこうと心に誓った。





硬式野球部

後編

水谷 篤史 (高37回)

硬式野球部は明石中学創立の翌年、大正13(1923)年に創部され今年で99年を迎えました。硬式野球部OB・OG会、「明高クラブ」は令和2(2020)年に役員を一新し、会長・高橋俊夫(37回生)、副会長・藤村一三(13回生)、山崎信宏(41回生)、田中勝憲(46回生)、三輪明生(49回生)、会計監査役・宮嶋 健(37回生)、事務局長・水谷篤史(37回生)、相談役・大塚弘一(15回生)、吉川一幸(18回生)の新体制で運営して参ります。

明高硬式野球部は過去、春は1930(昭和5)年、31(S6)年、32(S7)年、33(S8)年、34(S



9)年、38(S13)年、47(S22)年、87(S62)年の8回出場し、夏の大会には1932(S7)年、33(S8)年、50(S25)年、60(S35)年、84(S59)年、87(S62)年の6回、甲子園出場を果たしました。  
私自身も、1984(S59)年の夏の県大会決勝戦で、満員札止め超満員の明石球場での対村野工業戦に出場しました。緊迫した雰囲気の中で暖かい地元の方々の応援を背に闘って勝ったことをついこの前の出来事のように思い出し、今でも応援くださった方々への感謝の気持ちでいっぱい

です。  
古くはもう破られることは無いであろう明石中対中京商の延長25回伝説の激戦、桑田さん+清原さんのKコンビに挑んだPL学園戦(37回生)、常総学院島田投手(後に大洋ホエールズ入団)を打ち破り池田高校と対戦し、その夏には芝草投手(後に日本ハムファイターズへ)率いる帝京高校と闘った(40回生)。福岡ダイエーホークスで活躍された永井智浩氏が在籍された年(46回生)は秋の県大会で準優勝を経て近畿大会に駒を進めました。また春の近畿大会では和歌山の智弁を破り、元阪神タイガースの藤浪さん率いる大阪桐蔭と対戦(65回生)と数々の戦歴を残した明石高校硬式野球部でしたが、その後は低迷しておりました。しかし、一昨年の夏の大会では2回戦で第一シード校を粘り抜いて接戦を制し、その勢いに乗り4回戦まで駒を進めました。新チームになり、昨年の秋、春の県大会出場も果たし、明石高校硬式野球部の復活の兆しが着実に見えてきました。卒業生の皆様も母校の躍進を喜ばれたことでしょう。明高クラブも微力ながら現役生への支援をさせていただきたいと思

います。  
明高クラブは、高校硬式野球OBが集まって甲子園を目指す「マスターズ甲子園兵庫大会」に2016年より参加しており、これをきっかけに世代の垣根を越えて交流を図り、道はまだ遠いですが甲子園出場を目指しています。さらに明高クラブは、高校野球OB対抗「ゴルフ甲子園」にも出場しており、2014年には優勝という輝かしい戦歴を残しております。  
硬式野球部OB・OG会である「明高クラブ」の新役員メンバーとして活動させていただくにあたり、その伝統の素晴らしさと重みを改めて認識し、身の引き締まる思いです。加えて今年度には明石高校創立100周年を迎えてその記念行事として中京大中京高校(旧中京商業)との交流戦が実施されます。100周年行事に硬式野球部として華を添えることができればと考えており、卒業生の皆様からも協力いただきますようお願いいたします。  
OB・OGが盛り上がるのは、現役チームの躍進が一番だと思います。現役生の甲子園出場を切に願



美術科支部

2025大阪・関西万博公式マスコット・キャラクターに山下浩平さん(高41回)のデザインが決定!



新型コロナウイルスなど重苦しいニュースが続いていた中、2年後にせまった大阪・関西万博が明るい話題を提供してくれました。公式マスコット・キャラクターとして、デザインレーベル mountain mountain (マウンテンマウンテン) 代表で、我が明高美術科同窓生の山下浩平さんの作品が受賞したのです! その時点ですでに決まっていたロゴマークをもとに、レーベルの制作メンバーとともにアイデアを膨らませてできたキャラクターは、1898点もの応募作の中から選ばれました。

そして、さらに今年1月には、同キャラクター「ミヤクミヤク」と山下さんは、「関西元気文化圏賞」も受賞されました。明高美術科卒業後、大阪芸大へ進学され、近年はデザイナー・絵本作家として活動されている山下さん。明高に通われ

ていた頃はご実家の神戸にお住まいでしたが、現在は東京を拠点に活動されています。「やましたこうへい」名義で絵本を軸に児童向けの制作活動に力を入れていて、最新作『ちびクワくんおとうとなんてだいきらい』(ほるぶ出版)が昨年5月末に発売されました。万博開催にむけ、これから様々な形での展開が期待されるマスコットはもちろん、山下さんから生み出される、かわいらしいキャラクターたちの活躍にも目が離せませんね!

(文責:美術科支部 副会長 谷本 研(高44回))

【活動紹介】

◎美術科7回生(高44回)阿波根里恵さん企画グループ展「way of life」  
2022年3月 南港ATCデザインギャラリー  
阿波根さんの他、美術科7回生から6人が参加しました



◎美術科5回生(高42回)大久保真理子さんセラミックアート展  
~緑時間~  
2022年8月大丸京都店

◎美術科3回生(高40回)堤健二さん国画会会員によるグループ域展  
2022年12月 東京銀座シロタ画廊



【お知らせ】

★明石高校創立100周年記念美術展(関西展/関東展)開催決定!

- ◎関西展(兵庫県立美術館ギャラリー棟3階ギャラリー 借用申請中)  
2023年11月22日(水)~26日(日)  
※搬入:11/21(火) / 搬出:11/26(日)
- ◎関東展(横浜市民ギャラリー2階展示室A・B)  
2024年2月28日(水)~3月3日(日)  
※搬入:2/27(火) / 搬出:3/3(日) or 3/4(月)

普通科の方もぜひご出品ください



申込みメ切:  
2023年6月30日  
(関西展・関東展とも)

お申し込みはインターネットのGoogleフォームにご入力ください。  
入力方法が分からない場合は、別途メールかお電話でご連絡ください

お申し込み先:  
フォーム ... <https://forms.gle/MeRiTUJMwbVoc9RU8> →  
メール ... kawakamisougou2@gmail.com (代理)  
電話 ... 090-3928-3572 (同窓会美術科支部 副会長:稲葉(高44回))



出品希望フォーム

★令和5年度 同窓会美術科支部 総会のご案内

2023年11月25日(土) AM10:30~ 兵庫県立美術館ギャラリー棟1階アトリエ2  
百周年記念美術展会場にて第17回美術科総会も開催します。  
多数ご出席いただきますようよろしくお願い申し上げます。

最新情報は、  
明高美術科同窓会ブログ (<https://meibidousoukai.cocolog-nifty.com>)  
やFacebook ページ (<https://www.facebook.com/meikoubijutsu>)  
にてお知らせする予定です。



ブログ



フェイスブック

お悔み

浜野増雄	中戸田鶴子	岸丸哲	高校3 溝畑昌三郎	井上健修	高校2 上川修	森茂俊	高校1 竹下和	大塚和	併設2 松木幸夫	神保昌隆	栗西精一	河内明夫	中学20 森川忠夫	大森五郎	一山五郎	中学19 釋孝俊	中学18 尾西敏雄	中学14 松村守夫	中学9 八木達也	茶谷萬壽代	小堀萬壽代	堀林萬壽代	中瀬越進子	旧職員 武内清美	森葉寿男								
山口喜美子	牟礼怜子	村井弘明	密谷和正	坂田玲子	文谷泰久	野澤俊子	馬本良子	中賀波美子	平賀喜代美	谷川義孝	古賀伸信	岡本茂樹	岩本孝雄	石田貞雄	池上真雄	井上哲夫	藤田弘希	廣田昌甫	長谷川功博	中戸路良美	田井睦倉	沢井勝弘	坂口方勝	土山勝弘	梶山富一郎	西尾義一郎	岡本義一郎	谷口睦子	稲田一雄	高校5 武内清美	高校4 森葉寿男		
鶴石源一郎	飯原康治郎	高校13 藤本則文	東田宣夫	濱村好文	津重昭	切山隆	北山隆	保好房	岩崎伸	高校12 松井江	橋並信行	万並慶子	栗脇利行	藤川孝博	武田讓治	河合敦子	柳瀬竜也	藤尾澄子	中村征二	栗山征二	高校9 横井健至	山口武善	山善人	草川善人	高校8 塚本忠雄	今井恵晃	武井鈴子	河合美夫	城野裕美	植野美夫	井筒貞夫		
桶土栄子	湯浅すま	水田幸保	北川容子	竹田喜天	高校20 安井章夫	中井喜天	山田啓子	渡辺久陸	永井榮	中井榮	北原克禧	高校18 稲岡彰次郎	高校17 伊集院克子	広瀬敏秀	住野次郎	大垣和範	大垣和範	丁子三子	片岡豊子	高校16 音無洋子	岸野昌文	井上博富	井上博富	高校14 松田隆之	藤原正夫	西村博夫	坂口賢一	澤野靖子	金井正子	橋本純子			
り致します。	のご冥福をお祈	謹んで、故人	(4月末日までの	判明分)	松井美樹	高校43	岡松恭子	高校42	伊藤雅保	平山雅彦	辻本雅彦	高校36	岸本真季	高校31	山田邦江	太田黒紀子	高校28	正木三枝子	富本康三	高橋毅	高校27	生頼正彦	高校25	井上隆弘	高校23	金井澄	岡村哲勝	大塚勝	藤本美子	高校22	中本信	土井文代	木下茂

掛け軸寄贈の紹介

中本栄美子(高14回)

この度、明中明高創立100周年を機会に西松江公会堂に長年掲げられておりました山内佐太郎初代明中校長先生が揮毫された掛け軸一幅を西松江町内会として寄贈させていただくことになりました。この件につきまして概略説明させていただきます。

私が住んでおります西松江の公会堂2階の床の間に掛け軸が二幅掛けられております。昔から何の不思議もなく今まで掛けられておりましたが、2023年秋に明中明高100周年を迎えることを耳にしまして、掛け軸に書いてある「皇紀二六〇〇年山内佐太郎」を手掛かりに何故西松江の公会堂に山内先生の掛け軸があるのか調べてみました。

公会堂に昔から掲げてある写真の中に皇紀二六〇〇年(昭和15年)



の記念事業として西松江公会堂が建てられたこと、その時に床の間に掛けるお軸を当時明中の校長であった山内佐太郎先生が書かれたことが判明いたしました。

そこで私は俄然「寄贈」を思い立ち、40年以上お住いの方45軒を「寄贈のお願い」と「掛け軸の写真」を持って一軒一軒回らせていただきました。「そういうことであれば」と約七割の方が賛同(あとの三割は多い方に賛成)してくださいました。町内会の皆様の温かいご理解とご協力に感謝しております。

## 2022年度 決算報告

(2022年4月1日～2023年3月31日)

1 一般会計				(単位:円)
(収入の部)		予算額	決算額	増減
1	2021年度繰越金	1,745,876	1,745,876	0
2	2022年度会費納入金	7,260,000	7,307,000	47,000
3	財政調整基金より	3,000,000	3,000,000	0
4	雑収入(ご寄付、銀行利息等)	24,124	1,828,657	1,804,533
合 計		12,030,000	13,881,533	1,851,533
(支出の部)		予算額	決算額	増減
1	会議費	420,000	336,829	△83,171
2	事業費	7,790,000	7,436,631	△353,369
3	事務費	3,410,000	3,162,497	△247,503
4	100周年積立金	400,000	400,000	0
5	予備費	10,000	0	△10,000
合 計		12,030,000	11,335,957	△694,043
収入合計13,881,533円-支出合計11,335,957円=収支差額2,545,576円(次年度繰越)				
2 基金				(単位:円)
		(収入の部)	(支出の部)	
①	財政調整基金			
	2021年度繰越金	813,957		
	在校生納入	2,805,000		
	一般会計へ繰出		3,000,000	
	次年度繰越金		618,957	
合 計		3,618,957	3,618,957	
②	100周年記念事業特別基金			
	2021年度繰越金	1,200,000		
	2022年度積立金	400,000		
	100周年事業会計へ繰出		1,000,000	
	次年度繰越金		600,000	
合 計		1,600,000	1,600,000	
3 100周年記念事業ご寄附総額		約2,840万円		
4 監査報告				
2022年度の決算について、会計帳簿および関係書類を監査照合した結果、適正に処理されていることを確認しましたので報告いたします。				
2023年4月8日				
		監査	草川 雄二 印	
		監査	竹内 信六 印	

## 2022年度 事業報告

(2022年4月1日～2023年3月31日)

月	日	内 容	月	日	内 容
4	9	第1回本部役員会	9	17	第4回本部役員会
	9	会報第30号第3回編集委員会	10	22	第2回理事会
	23	第1回理事会	11	6	第5回本部役員会
	24	会報第30号第4回編集委員会	19・20		自彊セミナー「全統共通プレテスト」(3年生)
6	4	会報第30号発行	1	21	第6回本部役員会
	11	第2回本部役員会		28	同窓会役員等新年懇親会
7	2	2022年度総会(会場:母校視聴覚教室)			(コロナ感染拡大のため中止)
	2	第1回自彊セミナー運営委員会	2	28	第75回生同窓会入会式
		(コロナ感染不安のため大学見学中止決定)	3	4	第3回理事会
8	13	第3回本部役員会	4		会報第31号第1回編集委員会
	13	第2回自彊セミナー運営委員会	21		第73回生「二十歳の集い」
		(全統模試実施を決定)	26		会報第31号第2回編集委員会



## 高校78回生（明中・明高第100回入学生）の紹介

78回生学年主任 藤田 俊正

兵庫県立明石高校創立100年目にあたる2023年、第78回生は入学しました。「78」にちなんで、学年のスローガンを「七転八起」とし、何事にも粘り強く挑戦するチャレンジ精神の涵養を目指しています。

生徒たちは真面目でおとなしく、入学当初は右も左もわからずに緊張で佇んでいることが多かったのですが、徐々に学校の雰囲気にも慣れてきており、積極的に行動する生徒も出てきています。

4月末に行われた遠足では、講堂でのレクリエーションや大蔵海岸でのバーベキューを通して親交が深まり、現地解散後も砂浜で仲間同士語らう姿を目にすることができました。学習面においては、昨年度から生徒は一人一台タブレットを購入し、授業においてもICTを活用した教育を積極的に行っています。

明高100年という節目を迎え、建学の「自彊不息」の精神を継承しつつ新たな歴史を刻むべく、また粘り強く何度も挑戦する精神でこれからの社会の担い手となるべく、78回生は始動しました。

これからも温かい目で見守っていただきますようお願い申し上げます。

### ☆ 学年団紹介 ☆

- 1組（美術科）40名  
担任 宮城 教人
  - 2組（普通科）40名  
担任 富田 晃圭
  - 3組（普通科）40名  
担任 今安 智之
  - 4組（普通科）41名  
担任 松原 史弥
  - 5組（普通科）40名  
担任 石川真知子
  - 6組（普通科）40名  
担任 三浦 英碩
  - 7組（普通科）41名  
担任 青山雄太郎
  - 8組（理数探究）38名  
担任 林 孝輔
- 学年主任 藤田 俊正  
副主任 岡野安希子  
副担任 石原 友心



来賓席の一番手前に座った和田直樹同窓会長は高校28回生。「私が新入生として講堂に着席し、半世紀が経ったのだなあ」と感無量の想いで78回生を見つめていました。コロナ感染の規制が緩められ、4年ぶりに来賓出席の入学式でした。

### 編集後記

本号は母校創立100周年記念号になります。この機会に約50社の協力をいただき広告を掲載し全44頁の増大号となっています。創立100周年記念として多彩な事業が計画されています。本号の発行時点では既に一部の行事が終了しているかも知れませんが、9月に予定されている記念式典、祝賀会はコロナ禍も一段落し、マスクを外した笑顔でお祝いできることを楽しみにしています。

同窓会に多大のご協力をいただいた西校長が退任されました。STEAM探究科の創設に尽力され、卒業生が運営される企業との関係作りにも奔走されました。これらの特色ある企業のトップを務められる卒業生が多いのも明高の凄ところですね。その実施前に退任されるご本人も残念ですが、西前校長の母校への貢献に感謝するとともに、北中新校長が母校のさらなる発展の強力な推進力となれることを期待しています。

学年同窓会の開催報告はここ数年やや寂しい状況が続いていましたが、今後の開催予定は目白押しで、楽しみです。

(卓)

# 創立 100 周年に向け情報を発信していきます



トップページ

## 住所変更もスマホから簡単に



100周年記念事業の情報発信ページ(左)と陣羽織寄贈を伝える「スポットライト」

## \*より充実した同窓会の窓口を目指します\*

☆自強会の様々な事業をHPでいち早く報告

速報性を生かし、同期会や会議の様子をお知らせします

☆同窓会報「自強会だより」もスマホで持ち歩き

思いついた時にすぐに見られます。スマホの画面でも OK !

☆面倒な住所変更を手元のスマホから簡単に

転居されたら同窓会へも住所の変更をお知らせください

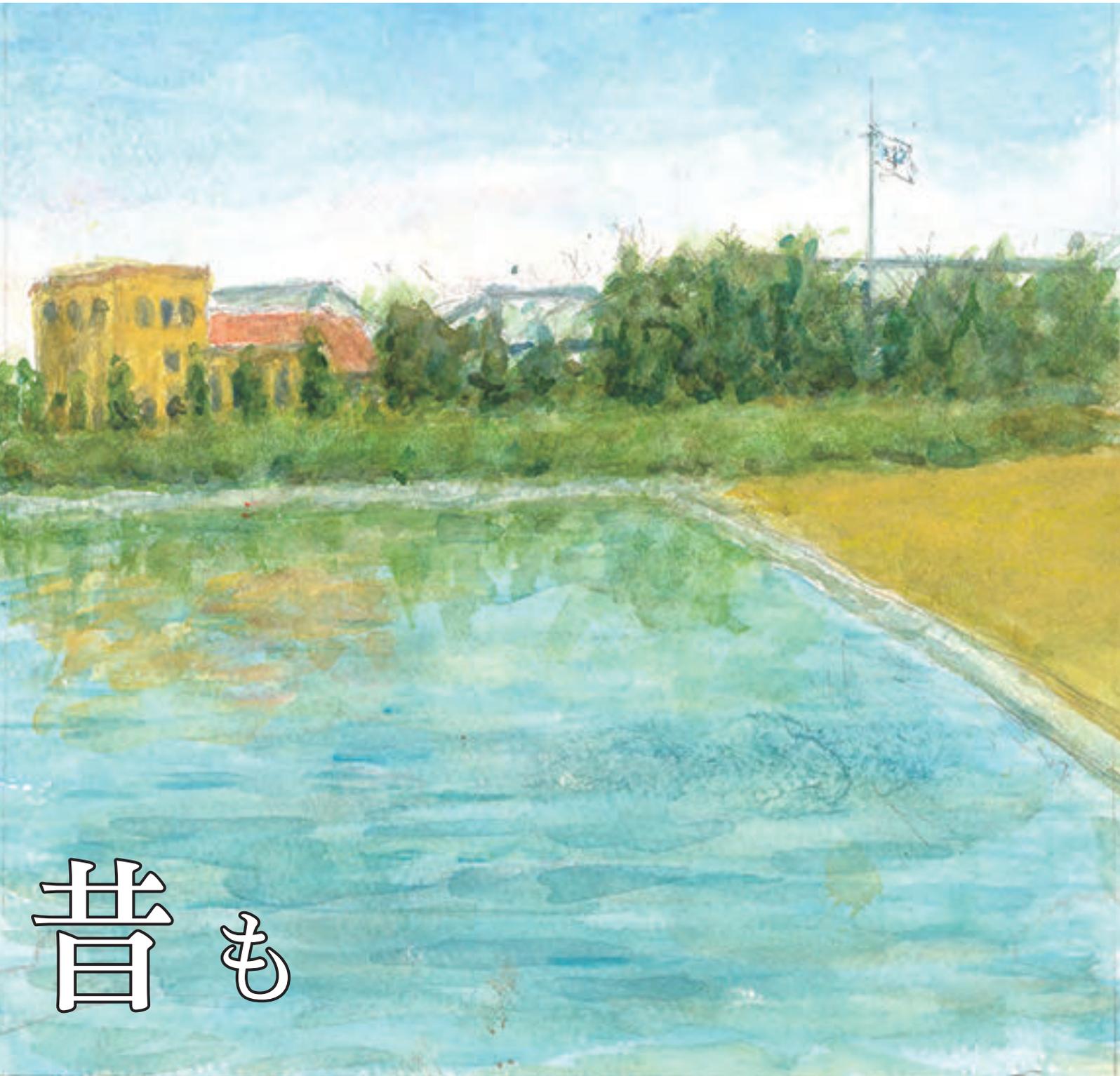
自強会

検索

<https://dousoukai.site/meikou-jikyoutai>



またはスマホから右の QR コードを読み込んでください



# 昔も

発行：県立明石中学校・県立明石高等学校 同窓会（自彊会）  
明石市荷山町1744番地 078 (913) 6554  
印刷：（有）木下ブンセイ出版印刷